

日本共産党の水谷修です。まず、大規模プロジェクトの城陽市東部丘陵地開発と京都舞鶴港開発についてです。

城陽市東部丘陵地開発による下流の水害、交通渋滞について

【水谷議員】城陽市東部丘陵地において、新名神の2023年開通に向けて、アウトレット、自動運転専用物流拠点、木津川運動公園再整備と多くのプロジェクトが進んでいます。東部丘陵地の砂利事業は、かつて近畿の砂利供給のその多くを担ってまいりました。土砂流出防備保安林を切り裂き、砂利を採り、その埋め戻しに産廃を投入し地下水が汚染されました。産廃の全量撤去と埋め戻し、保安林の復元、地下水水質監視などが行政の方針として確立されました。ところがです。違法開発を追認し、保安林を全面的に解除、さらに地下水水質監視井戸の閉鎖を行うなど方針の大転換が行われました。許されないことです。

昨年、発表のプレミアムアウトレット開発基本構想に対し、下流の水害、交通量増加に伴う交通公害、地下水汚染問題、地元商業への影響など、住民から不安の意見が上がっています。しかし事業者は、意見に十分応えることなく、本年4月に基本計画を発表し、夏にも着工、24年開業というペースで進めようとしています。

新東名・新名神開通に合わせ6車線化し、海老名南、豊田、城陽の各インター付近に自動運転トラック隊列走行の専用物流拠点を作る計画です。この物流拠点は、荷物の積み降ろし、隊列結合・分離に使い、別の道路に向かうための乗り換え場所としても利用するもので、東部丘陵地青谷地区整備ゾーンが想定されています。今、周辺の土地の流動化が進んでいます。国道307号線など生活道路への車の流入や、浸水被害が甚大な天井川でもある青谷川の安全性が極めて心配です。また、高速での自動運転化は、東京への一極集中と、運輸産業における寡占化をさらに加速するものとなるのではないのでしょうか。

木津川運動公園の再整備は、「広域観光拠点形成のための基盤整備」をPFI事業など官民連携手法で「スタジアム公園」「アウトドア施設改修」など公園を大きく拡張するものです。これも車の公害、下流の水害の懸念があります。

そこで伺います。下流の水害についてです。進行中の古川改修は床上浸水軽減が目標で、床下浸水を防ぐことができない暫定的改修です。上流の保安林を解除して開発することは危険です。さらに開発地では府条例に基づく調整池方式とされています。下流の古川は内水氾濫常襲地域です。内水氾濫は、洪水の総流量が、湛水力を超過することにより発生するものです。一方、外水氾濫は河道の許容量を洪水が上回り溢水するものです。溢水の機序が違うのです。上流開発池の調整池はピークカットが目的であり、洪水の総流量を減らさないため、内水氾濫の防御にはなりません。そればかりか洪水が遅れて流下してくるので、水害発生以降も長時間にわたる洪水で被害を拡大することになってしまいます。保安林を解除しての開発、また、内水氾濫常襲地域の上流での調整池方式は、内水氾濫を防御できないので、認めるべきではありません。お考えをお聞かせください。

渋滞悪化の問題ですが、アウトレットの基本計画資料によりますと「来客車両の誘導経路は幹線道路（新名神・東部丘陵線）とします」とし、隣接地域の生活道路への来客車両の侵入を防ぐとしています。ところが基本計画をよく読むと、東部丘陵線から、国道 24 号線や旧 24 号線（府道城陽宇治線）や府道山城運動公園城陽線に誘導する計画です。これらの道路は、日常的に渋滞している生活道路であり、生活道路にさらなる渋滞をもたらす計画と言えます。また本府が進める都市計画道路城陽橋などの交通配分計画も狂ってしまうでしょう。生活道路に深刻な渋滞をもたらすことについて所見をお聞かせください。隊列走行物流拠点や木津川運動公園拡張がこれに加われば、生活道路の深刻な渋滞をもたらすことは必定ではないでしょうか。お考えをお聞かせください。

舞鶴港国際埠頭二期工事は一旦立ち止まり見直し、再開発計画の再検討を

【水谷議員】舞鶴港開発についてです。国際埠頭開発の総事業費は現在 519 億円で残事業を含めると 614 億円にもなっています。うち補助事業は 138 億円で、また直轄事業 265 億円の 45%が府負担であり、本府の負担は甚大です。取扱量の増加と用地不足を理由として、二期工事に着手し事業が進められています。

舞鶴港の取扱量実績と計画と比べてみるとどうでしょうか。コンテナ取扱貨物量は 2018（平成 30）年度実績 1 万 8623 T E U（T E Uはコンテナの量の単位で 20 フィートコンテナ換算）で、2023（平成 35）年度推計値 3 万 2315 T E Uと比べると 58%で、大きな乖離があります。公共埠頭での外貿取扱量は、2018（平成 30）年度実績 60.1 万トンで、2023（平成 35）年度推計値 185 万トンの 31%に過ぎず、極めて大きな乖離があります。港湾計画は 2013（平成 25）年に策定された 10 年計画で、実績が大きく下方にぶれているにもかかわらず、とにかく港湾整備を推進しています。包括外部監査でも「2013（平成 25）年 12 月港湾整備計画改定時の状況と大きな乖離がある為」、「港湾計画の見直しの可否を検討すべき」と指摘しています。

舞鶴港開発は、物流・人流・発電を柱に進めてこられました。物流の実績は述べたとおりであり、地域の物づくり産業を育てることが十分進んでいないことなどから、結局、推計値を大きく下回っています。運輸産業も既存の大手企業の仕事となっているのが実情ではないでしょうか。産業立地との整合性なき港湾整備で、工事のための工事になってしまっているのではないのでしょうか。人流事業も、クルーズ船の消費額は、せいぜい一人当たり 7～8 千円であり大きな地元効果をもたらしていません。発電事業は、港湾風力発電も実らず、地球環境に悪影響の石炭家電は将来を見通すものではなく、府と市がパーム油発電に固執しているだけです。

株式会社「舞鶴 21」は、F A Z 法による輸出入促進を目的に設立し、ビルが建てられたものの、貿易とは関係のない貸しビル状態です。舞鶴には、貿易業務に必須の原産地証明をあげることもできませんし、地元信金が貿易代金の海外送金をやめ、また、貿易アドバイザー業務をしているわけでもなく、貿易事業者や起業を目指す方々のお役に立っていないのが実情と違うのでしょうか。

港湾用地の管理にも問題があります。国際埠頭の間連用地は 76 億円の巨額を投じて 6.1 ヘクタールを造成しました。実に坪あたり 41 万円の築造費です。国際埠頭用地のうち 1.73 ヘクタールを、C E F トランスポーターションに、流通業務・保管用地として、2 億 5764 万円、坪あたり 4.5 万円で売却しました。同社はその多くを目的外の太陽光発電事業に使用しています。港湾局は、太陽光発電の性能の実証のための利用だといいますが、調べてみますと同社はこの保管用地を、F I T 事業認定により 20 年間の価格保証を受け営業発電に使っています。明らかに目的外利用で買い戻し条項に当たるの

ではないでしょうか。用地不足だから第二期工事が必要だとの説明と大きな矛盾があります。また、港湾の入り口のとれとれ市場の横にある、港湾用地借地に建つM社倉庫は10数年前から地代も入らないまま、草木だらけで放置されています。港湾用地が足りないというのなら、きちんと管理・整理すべきです。

そこでお伺いします。国際埠頭二期工事は、一旦立ち止まり見直しするべきです。本府のお考えお聞かせください。

かつて舞鶴港整備は、長田野工業団地と縦貫道と舞鶴港の一体的整備でタテの開発として北部振興に大きな役割を果たしてきたと思います。従前の舞鶴港開発計画に漫然と大金を投じて進めるのではなく、北部振興に寄与できる舞鶴港開発のあるべき方向、港湾用地管理、港湾事業者支援を含め港湾事業のあり方を再検討すべきですがお考えをお聞かせください。

舞鶴市のパーム油発電所計画は中止を 誘致を進めた府計画は破たん。政治責任が問われる

【水谷議員】 パーム油ディーゼル発電所についてです。6月14日付毎日新聞は「パーム油発電所、事実上の事業断念 アンプ社、MG I 清算へ」と報じました。「パーム油バイオマス発電所が事実上、建設を断念する情勢になった」。市は13日の地元説明会で、オーナー会社のアンプ社から「6月中に次のオーナー会社が見つからない場合、7月1日からMG I の会社清算の手続きに入る」との連絡があったことを明らかにしたというものです。

知事と舞鶴市長が誘致の信書を書いて、府が発電所立地補助金1億円を出すことを表明してまで、前のめりに建設を進めてきました。FIT認定を受けて20年間の利益が保証されることで投機マネーの出資者を募集してきましたが「共同出資者誘致が困難」になったのです。この誘致破綻は政治責任が問われる大問題です。毎日新聞4月23日付けによれば、アンプ社の撤退の理由は「事業規模が大きく資金調達などさまざまな課題があり、住民の強い反対があった」とのことです。パーム油は熱帯林を伐採して地球環境を壊すものであり、騒音と悪臭、大量の窒素酸化物を放出し周辺環境を壊すものと言わなければなりませんから、地元合意は困難です。知事も答弁されたようにFIT制度は「住民理解が前提」です。

この際、地球環境と舞鶴の地域環境を壊すパーム油ディーゼル発電所計画を本府が推進することはやめるべきです。また、異例の知事の誘致信書まで出し、補助金を条件に前のめりに推進してきましたが、3社目のオーナー会社撤退という事態になったことをどう考えているのかお聞かせください。

ジャパンマリユニテッド(JMU)が造船事業から撤退表明し、舞鶴の雇用と経済にとって重大事態になっています。予算委員会でお聞きした時は、本府は雇用者の状況や、関連企業の状況も十分把握しておられませんでした。舞鶴市商工会議所の1000事業所への会員アンケートでは甚大な影響が浮き彫りになり、今後の対策では、緊急を要する支援内容では「新規受注先」が56.2%の事業所が望んでおられます。支援策として71.9%の事業所が「従業員の雇用」をあげています。期待される施策では34.6%が「新規企業誘致」をあげておられます。JMU舞鶴事業所の300人、構内事業所の14関連会社の従業員300人の雇用、また多くの関連企業の経営が破綻に追い込まれようとしているのです。

影響を受ける事業者の状況、労働者の状況、および今後の見通しについてご説明ください。折しもコロナ危機打破のために地域の産業を外需依存、グローバルサプライチェーン依存からの構造転換が

必要な時です。かつて、宇治で日産が撤退した時のように、企業立地、関連企業の事業転換、特別の雇用対策なども含めたJMU撤退に対する特別支援策を講ずるべきですが、お考えをお聞かせください。

【答弁・知事】 城陽市東部丘陵地開発についてであります。城陽市東部丘陵地開発は、京都府総合計画に掲げた「新名神を生かす『高次人流・物流』構想計画の中核をなすもの」であり、城陽市が策定された「東部丘陵整備計画」にもとづき、現在、長池地区、青谷地区において先行的に開発計画が進められております。これらの計画を進めるにあたり、今後、保安林の解除申請が提出された場合は、土砂流出を防止するための構造物や調整池を設置するなど、保安林の解除をしても、災害の危険性がないことにつきまして、国の基準により京都府が審査したうえで農林水産大臣が決定されることとなります。

また、開発に伴う調整池の設置に関しましては、平成28年6月議会において全会一致で御議決いただきました「災害からの安全な京都づくり条例」におきまして、開発面積が1ヘクタール以上などの要件に該当する開発行為に対し、総合的治水対策の観点から重要開発調整池の設置を義務づけております。調整池の基本的な考えといたしましては、農地や森林等の持つ保水力が開発行為により低下し、下流域において浸水被害を発生させる可能性が高まると認められる場合に、降った雨を一時的に貯留し、河川への流出を遅らせることで浸水被害発生の可能性を低減しようとするものでございます。

このため、調整池は京都府が定める技術基準に準拠し、50年に1度の規模の降雨による当該開発地域からの流出量が下流河川の流下能力に応じて定められる許容流量以下に設計されることが求められております。したがって、東部丘陵地開発に伴って開発される調整池は、古川の水位低下に寄与することとなり、むしろ下流域の安全度は高まるものと想定されております。

京都府といたしましては、「災害からの安全な京都づくり条例」をはじめとした適切な規制、指導を通じて、東部丘陵地開発が地域の成長・発展につながるとともに、住民生活との調和が保たれたものとなるよう努めてまいりたいと考えております。

【答弁・佃府民環境部長】 舞鶴市におけるパーム油バイオマス発電所についてでございます。本件は、国のFIT制度上の再生可能エネルギーによる発電事業であり、温室効果ガス排出量の削減に効果があるとともに、地元雇用の創出、港湾利用の促進など地域経済の活性化にもつながるものと考え、舞鶴市と連携して対応してきたものでございます。今回、本事業の出資企業が資金調達等の理由に、事業から撤退すると表明され、また、先日開催されました舞鶴市・日立造船と住民代表との協議の場において、6月中に新たな出資者が現れなかった場合、同社が本事業の運営会社の解散手続きに入る意向であるとの説明を行った旨、舞鶴市から報告を受けたところでございます。京都府といたしましては、本事業は地元の皆様のご理解が前提であると考えており、今後とも舞鶴市における地元住民との協議の状況や事業主体の動向をふまえながら対応してまいりたいと考えております。

【答弁・鈴木商工労働部長】 ジャパンマリンユナイテッド株式会社舞鶴事業所の新造船事業の撤退についてでございます。造船は市の基幹産業であることから国、京都府、舞鶴市、経済団体等が特別の対策といたしまして、「JMU舞鶴事業所対策連絡会議」を設置し、雇用対策や協力企業の経営支援を実施しているところでございます。雇用の問題につきましては、新造船部門の300人が順次配置転換される予定で、まず設計部門の約50人の方の一部を対象に7月から実施されます。JMUには万全

の対策を求めておりますが、人事ヒアリングの結果、家庭の事情等でやむなく退職を選ぶ方も出てきてまいります。このため、4月に舞鶴商工会議所会員企業13社による採用説明会を開催、今後、長田野や綾部工業団地の企業による採用面接会も開催予定としております。また、5月にはハローワークがJMU舞鶴事業所で、ハローワークの利用等について説明会が開かれ、従業員のみなさんに寄り添った支援を実施してきたところでございます。JMUによれば令和3年度第1四半期まで新規造船を続けられるとのことですが、将来を見据え協力企業が国内顧客の開拓や新規事業分野の開発に取り組まれる場合には、エコノミック・ガーデニング等の各種補助金も活用して伴走支援を行ってまいります。今後ともJMUに対し、環境分野等で新たな事業展開を要望するとともに、国・府・市が連携して雇用と産業の維持に取り組んでまいります。

【答弁・富山建設交通部長】 開発に伴う生活道路の交通量増加についてであります。道路の計画にあたりましては、現在の交通状況に加え新たな交通が発生する開発計画などを考慮して、計画交通量を設定するものであり城陽橋等の道路事業についても、想定される東部丘陵地の開発を考慮した計画となっております。一方、開発者から城陽市に届け出があった基本計画におきましては、アウトレットの来客車両は新名高速及び東部丘陵線を誘導経路とし、主に城陽スマートインターチェンジを利用するものとされております。開発者からは今後、大規模小売店舗立地法にもとづく手続きのなかで周辺地域の生活環境の悪化防止のため、来客車両が生活道路などを回避するように対策を検討し適切に対応すると聞いております。

京都府といたしましても、具体的な計画を確認し、周辺道路への影響が十分に緩和されるよう必要な措置を求めてまいります。

次に、隊列倉庫物流拠点につきましては、国が発表いたしました新しい物流システムに対応した「高速道路インフラの活用の方向性中間とりまとめ」におきまして、城陽ジャンクション附近が候補地の一つとして示されておりますが、現在、これにつきましては具体的な計画や規模については承知をしておりません。

また、木津川運動公園北側区域については、現在、基本計画を検討している段階でございまして、交通処理につきましては、今後具体的な施設配置を計画し、来園者数などを想定するなかで関係機関との協議を進めてまいりたいと考えております。

次に、京都舞鶴港開発についてでございます。港湾の開発利用は、港湾法に定める港湾計画のもとで進めることとされており、京都舞鶴港におきましては、平成25年に改定した港湾計画において、「新規産業誘致と港湾機能の充実等による府北部地域の活性化につながる港づくり」の方針を定め、整備等を行ってきているところでございます。この間、積極的なポートセールスや荷役設備の充実等をはかった結果、大手食品メーカーが工場を増設するなど利用が拡大してきておりまして、コンテナ取り扱い量はこの10年で3.5倍に増加し、コンテナヤードの取り扱い能力は限界に近い状況となっております。そのため、まずは未利用地の活用によりヤード不足に対応するとともに、さらなる増加を見据え舞鶴国際埠頭のⅡ期整備にむけた調査を進めているところでございます。今後、国と調整しながら、事業着手にむけた埋立免許申請の手続き等を進めてまいります。

北部振興に資する港湾事業のあり方につきましては、地元経済団体をはじめ北部5市2町の首長や有識者が参加していただいております北部港湾広域利用推進会議を設置し、例えば、「日本海側の玄関口としての観光ゲートウェイの機能強化」や「地域資源を生かし、連携と協働による京都府北部のブランドの創出と交流活性化」などについて議論をしているところでございます。また、港湾関連用地

につきましても、区分条例等に合致しているかを審査し売却対応の契約を結んだ上で、職員が巡回する等、適切な管理に努めているところでございます。

現行の港湾計画は平成10年から概ね10年を目標年次としており、今後地元の声を反映し、京都舞鶴港が府北部の振興によりいっそう寄与できるよう改定にむけた検討を進めてまいります。

【水谷議員・再質問】まず、東部丘陵地開発ですが、調整池はネック地点の許容量で計算しています。問題になっているのは、それより下流の古川で溢水が内水氾濫で起こっていることで、それとは関係ないことをしたって内水氾濫を防止できないということでもありますので、指摘しておきたいと思いません。

東部丘陵の一連の開発がトラックの自動運転などまだわからないというけれども、本府の負担や地元自治体の負担、どのような事業量になるのか明確にすべきだと思いますのでお聞かせいただきたいと思いません。

舞鶴港については、先ほど言ったとおりでございますが、パーム油発電について再度、伺います。パーム油発電については、今後の動向を見たいというけれども、どう考えても出資継承企業が現れずに事業が破たんしたと思いません。1億円の補助金を約束して信書まで出して推進してきたことについての総括と責任の取り方が必要だと思いますが、その点について見解を問うものでございます。

【知事・再答弁】城陽市東部丘陵地開発の全体像というご質問でございましたけれども、これは総合計画に示した新名神を生かす高次人流物流構想の中核でございまして、現在は城陽市が策定をされました東部丘陵地整備計画、これにもとづきまして長池地区、青谷地区の先行的な開発計画が進められておりまして、当面、この先行的な開発につきましても城陽市の意向を十分にふまえながらその進行に支援をしてみたいと考えております。

【佃府民環境部長・再答弁】舞鶴市におけるパーム油バイオマス発電所についてでございます。本事業の推進にあたりましては、舞鶴市に立地の企業の市外流出による地元経済への影響を懸念されました舞鶴市からの相談を受ける中で、舞鶴市と連携して対応してきたものでございます。

京都府といたしましては、事業の推進にあたりまして、地元のみなさんのご理解が前提と考えております。この間、舞鶴市におかれましては地域住民のみなさまと協議・対話を重ねておられるところでございますので、今後とも舞鶴市における地域住民のみなさまの協議や事業主体の動向をふまえながら対応してみたいと考えております。

【水谷議員・指摘要望】東部丘陵については、全体の計画知っていますがどのくらいの財政規模かということも明らかになってないし、地元の負担もよくわからないということですから、そういった全体像を明らかにするべきだと思います。パーム油発電は、府と市が前のめりになって補助金も出す約束をしてやってきたのに破たんをしているということについて政治責任があるのではないかということは何もお答えがされていません。今後、別の機会に詰めていきたいと思しますのでよろしくお願します。

洛南病院の建て替えは現場、利用者、地元の意見を十分反映して

【水谷議員】次に洛南病院の問題ですが、改築後30年を超え、また、スーパー救急やリハビリの環境整備、医療監察法ベッドなどに対応をするため、建て替えることになっております。今、基本設計途上です。本年実施設計の予定で、基本構想では、清潔・不潔の動線が区分されていません。本府が、医療法第25条による所謂「医療監視」によって、洛南病院が清潔・不潔の動線が分離できていないことについて指導しているようですが、どう指導しているのですか、説明ください。そして、洛南病院改築を進める本府は、基本設計において清潔・不潔の動線分離について、未だに改善しようとしておりません。このことについてどうするのか、ご説明いただきたいと思います。

また医療監察法による施設17床を、新たに設けることになっていますが、医療監察法施設を設けること、および、設計・計画について、障がいのある人の「完全参加と平等」の理念の下、せめて当事者のヒアリングをして反映するべきですが、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

【健康福祉部長・答弁】洛南病院の施設整備計画についてでございます。京都府においては医療法第25条にもとづき、すべての病院の医療監視を毎年実施しておりますが、洛南病院においては、給食の配膳や下膳等の動線も区分されており、清潔を保持する項目において指導対象とはなっておりません。

昨年度から進めております建て替えにかかる基本計画については、安全で効率的な医療環境を整えるため、医師、看護師などの医療従事者や、患者の動線についても考慮して盛り込んでおります。

新型コロナウイルス感染症の影響で、業者との面談が十分に行えないなどにより、繰り越しを行い、現在取りまとめているところであり、基本設計にかかる変更の必要はないと考えております。

また精神科病院における救急病床数につきましては、令和2年度の診療報酬改定により、病院の規模に応じて病床数に上限が設けられましたので、実施設計の中で見直しを行い、急性期病床へ転換する予定としております。

次に医療観察法病棟につきましては、平成29年度に、精神障害のある方の家族会も参画する「医療監察制度運用に関する今後のあり方意見交換会議」で、医療監察法の目的は対象者の社会復帰であること、洛南病院での整備が妥当であることとのご意見をいただいております。今後関係者の話を伺い、丁寧に進めてまいりたいと考えております。

【水谷議員】洛南病院の清潔・不潔の問題ですが、現場から聞いている話と若干答弁が食い違っておりますので、また確認して別の機会に聞きたいと思います。

いずれにしても清潔、不潔の動線がきちんと分離されるように、十分な設計の改善を求めておきたいと思います。医療観察法の施設について、関係者の意見も聞きたいとこととでございますので、ぜひよろしく願います。同時に住民に対する説明を、丁寧に十分していただきたいということ要望して質問を終わります。ご静聴ありがとうございました。